

安全作業マニュアル

- I チェーンソー編
- II 刈り払い機編
- III 電動丸鋸盤編

八王子住まいづくり市民塾

I チェーンソー編

(1) スパークプラグの点検



エンジンのかかりが悪いときは、スパークプラグにカーボンが付着していたり、燃料を吸い込みすぎて濡れていることがあるのでカバーを外し、プラグを外して点検する。

(専用工具がある)

(2)



プラグ先端のスパーク部分にサンドペーパーを挟むようにして磨き、ウェス(ポロ布)等でふき取ってから、元どおりに装着する。

(3) チェーンの点検



チェーンを引っ張ってみて回らないこと(ブレーキがかかっていること)及び、つまみあげてみて3~5mm程度のゆるみがあることを確認する。

(ゆるすぎる場合はチェーンの張りを強める)

(4) エンジン始動



チェーンソーを地面において足でしっかり固定し、スターターロープを引っ張ってエンジンをかける。ロープはゆっくり引っ張り始め、半分ほどから素早く引っ張るとかかりやすい。

このとき、始めはチョークを空けて数回引っ張り、その後チョークを戻して引っ張る。(チョークを空けたまま引っ張っていると燃料を吸い込みすぎてプラグが濡れ、かかりにくくなる)

エンジンがかかったら、冬期はしばらくアイドル状態で保持する。その後、ブレーキを解除し、作業にかかる。

(5) 立ち木の伐採



立ち木を伐採するときは、**足元や周囲の安全を十分に確認し**、まず、倒したい方向に**楔形の切れ込み**を入れる。

その後、反対側から**楔形の切れ込みの少し上**に切れ目を入れる。



水平の切れ目は、木が倒れるまでは入れず、木が傾くか切れ目が広がってきたら止め、最後は足で蹴って倒す。

(6) 細断



地面で細断するときは、下に枕木を入れるとチェーンソーの刃が挟まれにくい。



刃を入れるときは、刃先ではなく、刃元を使うようにすると安定する。

(7) 足の構え



悪い構え！

左足を前に出しているとき、切り終わったときや刃が暴れたときに自分の足を傷つけるおそれがある。



良い構え

左足を開き、腰を落として重心を低く構える。

作業終了後は、チェーンソーに付着した泥や木屑をなるべく取り除き、長期間使用しないときは燃料を抜いておくこと

Ⅱ 刈払い機編 (金属刈刃ではなくナイロンコード使用の場合)

(1) 身支度



サロペット(前掛け)を着用



保護メガネ、メッシュガード付きヘルメットを着用

(2) 給油



ガソリンとオイルを50:1(大きなタンクの目盛が2のときは小さなタンクの目盛も2になる)で混合



タンクを反転させて振り、ガソリンとオイルをよく混ぜる。



給油口から燃料を注入する。
(タンクの上端レベル以上に入れすぎないこと)

(3) ナイロンコードの調整



両端を引っ張り、コードのたるみをとる。



コードの長さは飛散防護カバーから出ないようにする。(長い場合はカップを回して調整する)

(4) エンジン始動



右ハンドル先端のストップスイッチを始動の位置に上げ、スロットルレバーを低速の位置にする。



チョークレバーを「閉」の位置にし、隣のプライマリポンプを数回押し燃料を吸い上げる。



スターターグリップを数回引き、エンジンがかかりそうな音がしたらチョークレバーを「開」にし、更に数回引く。

(「閉」の位置でかかりそうな音がしないときは「開」にし、更に数回引く)

注意! (「閉」の位置で引き続けると、燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。)

緊急停止は、ハンドル先端のストップスイッチを下げて停止させる。

作業終了時もストップスイッチで停止させる。それでも停止しないときは、チョークレバーを「閉」にすれば停止する。

(5) 肩掛けバンドの調整



肩掛けバンドは両手でハンドルを握ったとき、ナイロンコードカップが地上数センチの高さで水平になるよう長さを調節する。



フックが腰の高さになるようバンドの長さを調節する

(6) 作業開始



小石等が跳ねることがあるので
近くに車が駐車しているときは、
予め移動するか、ベニヤ等で防護
する。

**長期間使用しないときは、プライマリポンプを数回押して中の燃料
をタンク内に戻し、燃料タンク内の燃料は抜き取ること。**